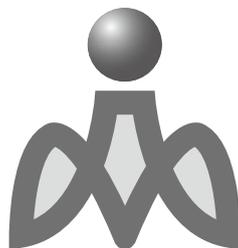


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和6年4月～6月実績〕
〔令和6年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第1四半期 令和6年4月～6月期 「調査時点：令和6年6月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービスマ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市川三郷町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南都留中部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

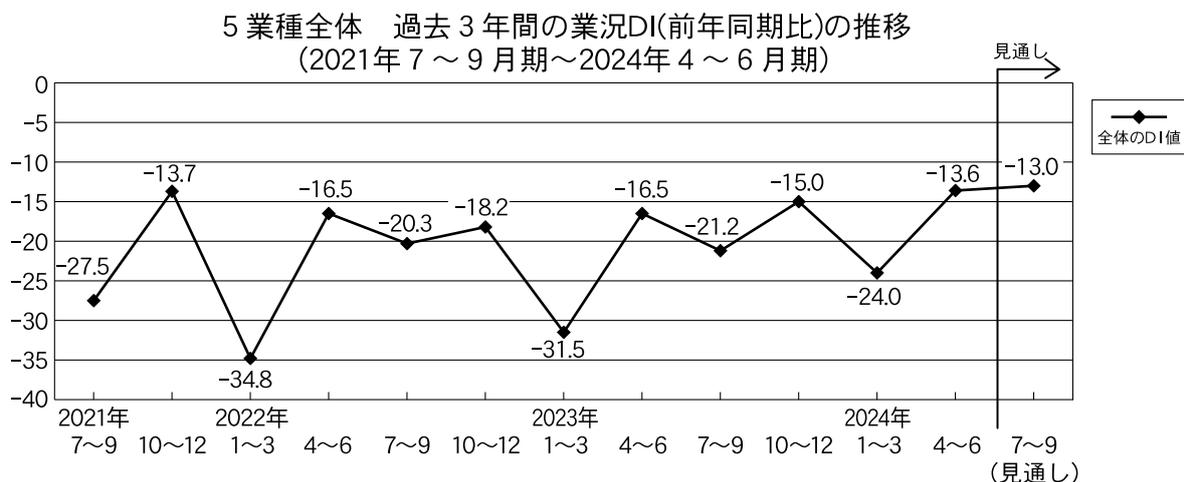
本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

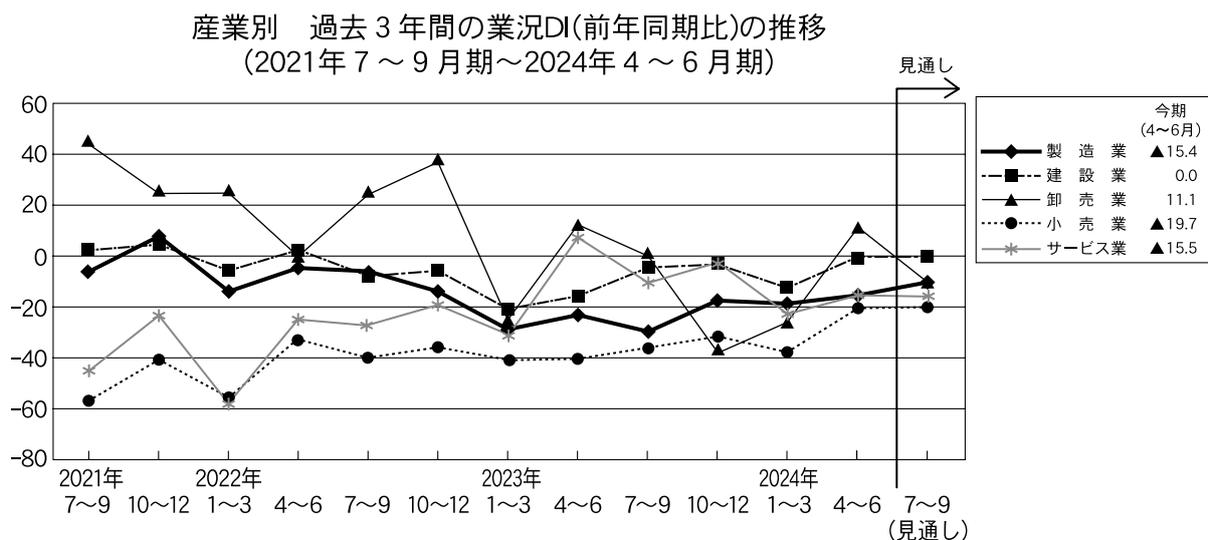
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲13.6と前期比で10.4ポイント改善している。来期も▲13.0へ僅かながら改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

4～6期は5業種全てが改善した。製造業は▲15.4で前期比+3.0ポイント、建設業が0.0で前期比+12.5ポイント、卸売業が11.1で前期比+36.1ポイント、小売業が▲19.7で前期比+17.7、サービス業が▲15.5で前期比+7.1ポイントであった。

来期は、製造業が改善、建設・小売・サービス業が変化なし、卸売業が悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの125企業を含めた290サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

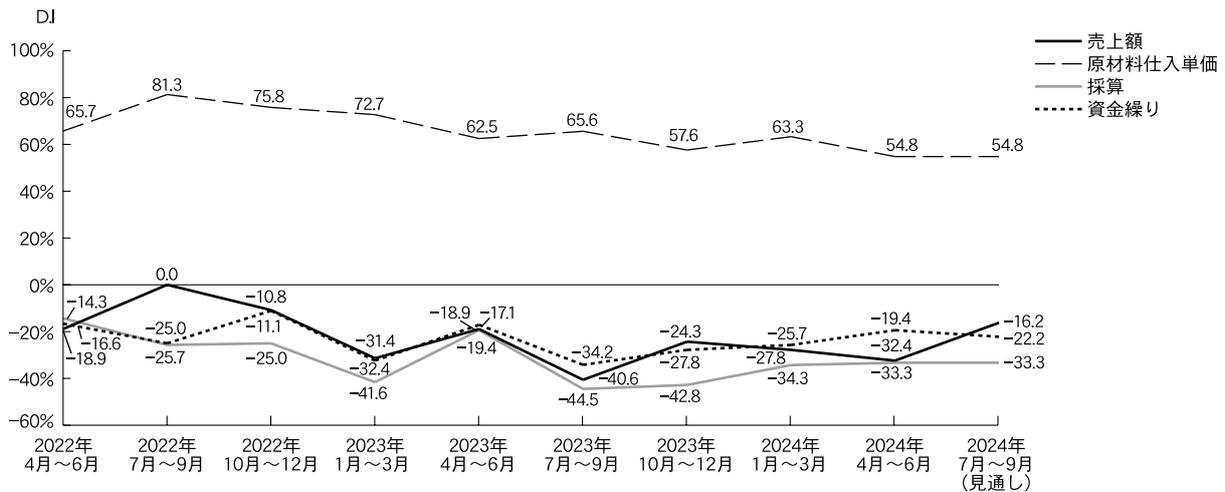
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲32.4と前期比で4.6ポイント悪化したが、来期は▲16.2へ改善の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期54.8と前期比で8.5ポイント下降（改善）し、来期も54.8の見通し。採算D Iは、今期▲33.3と前期比で1.0ポイント改善し、来期も▲33.3の見通し。資金繰りD Iは、今期▲19.4と前期比で6.3ポイント改善したが、来期は▲22.2へ若干悪化の見通しである。

今期、売上額D Iは悪化したが、それ以外のD Iは改善。来期は、売上額D Iが改善、原材料仕入単価D Iと採算D Iとが変化なし、資金繰りD Iが悪化の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

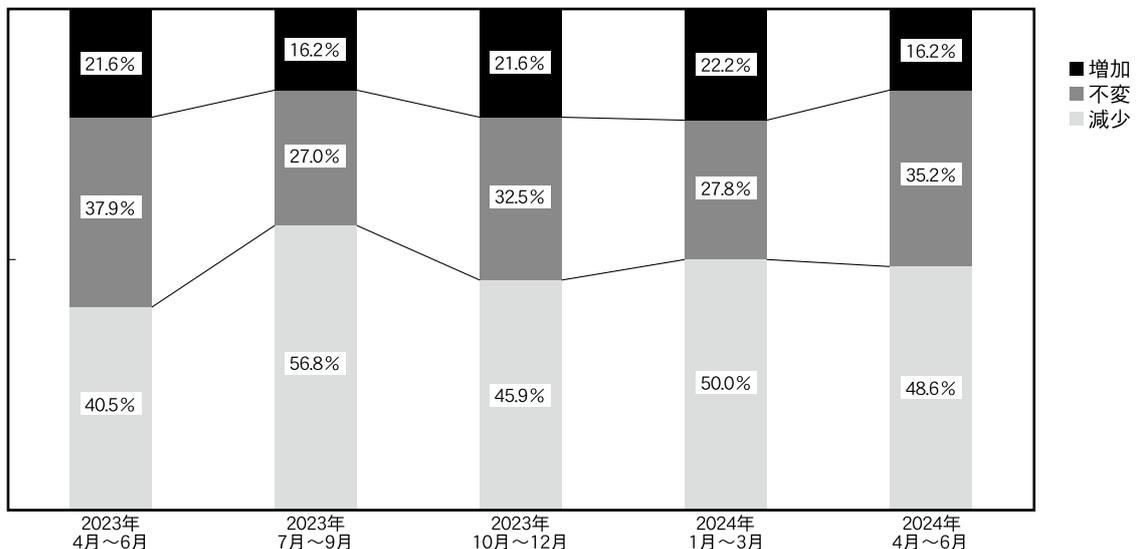
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社（前回36社）））

「増加」と答えた企業の割合は、16.2%（6社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は35.2%（13社）と増加（前期比+3社）、

「減少」は48.6%（18社）と減少（回答企業数は前期と変化なし）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社（前回35社））

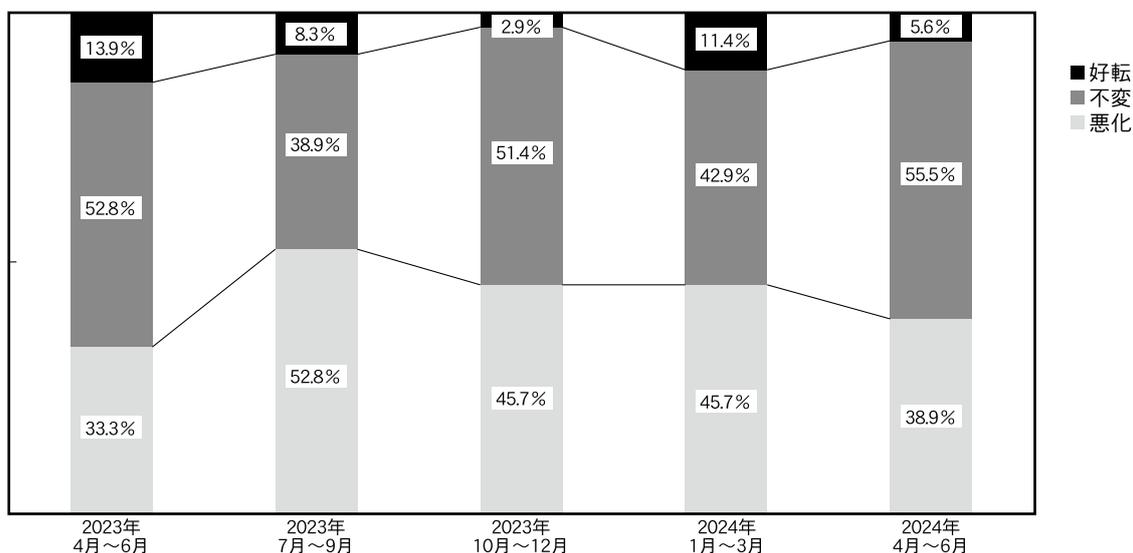
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.6%（2社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は55.5%（20社）と増加（前期比+5社）、

「悪化」は38.9%（14社）と減少（前期比▲2社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

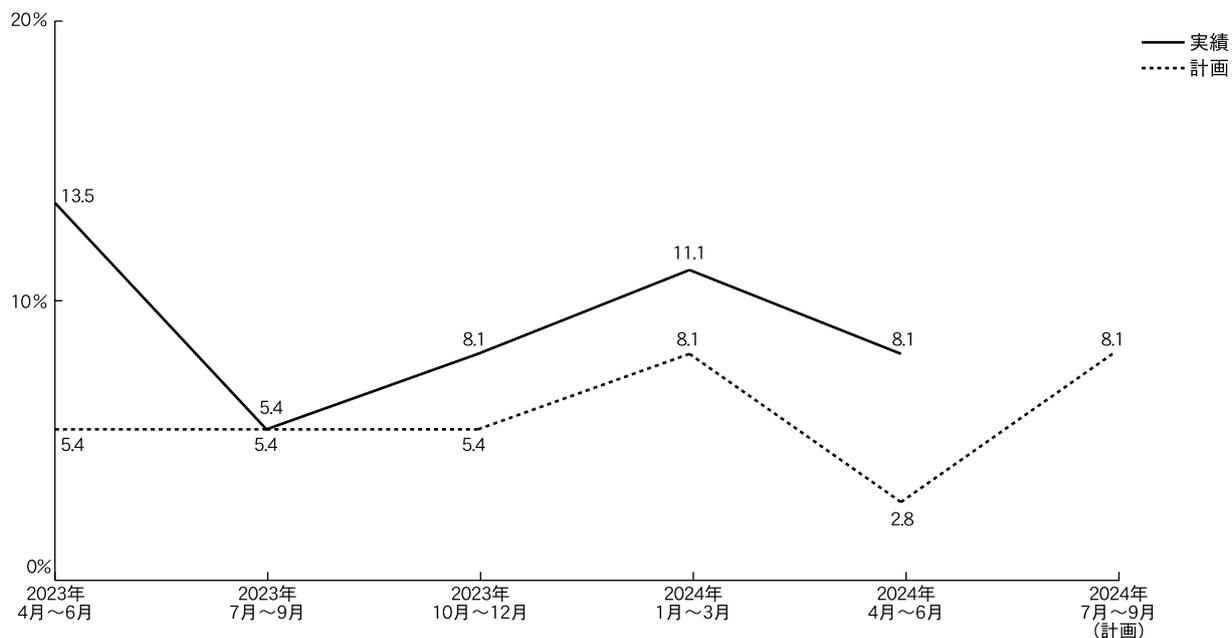


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.1%（3社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」「車両・運搬具」が2件ずつであった。

来期の計画についても、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「生産設備」が2件、「付帯施設」が1件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数37社）

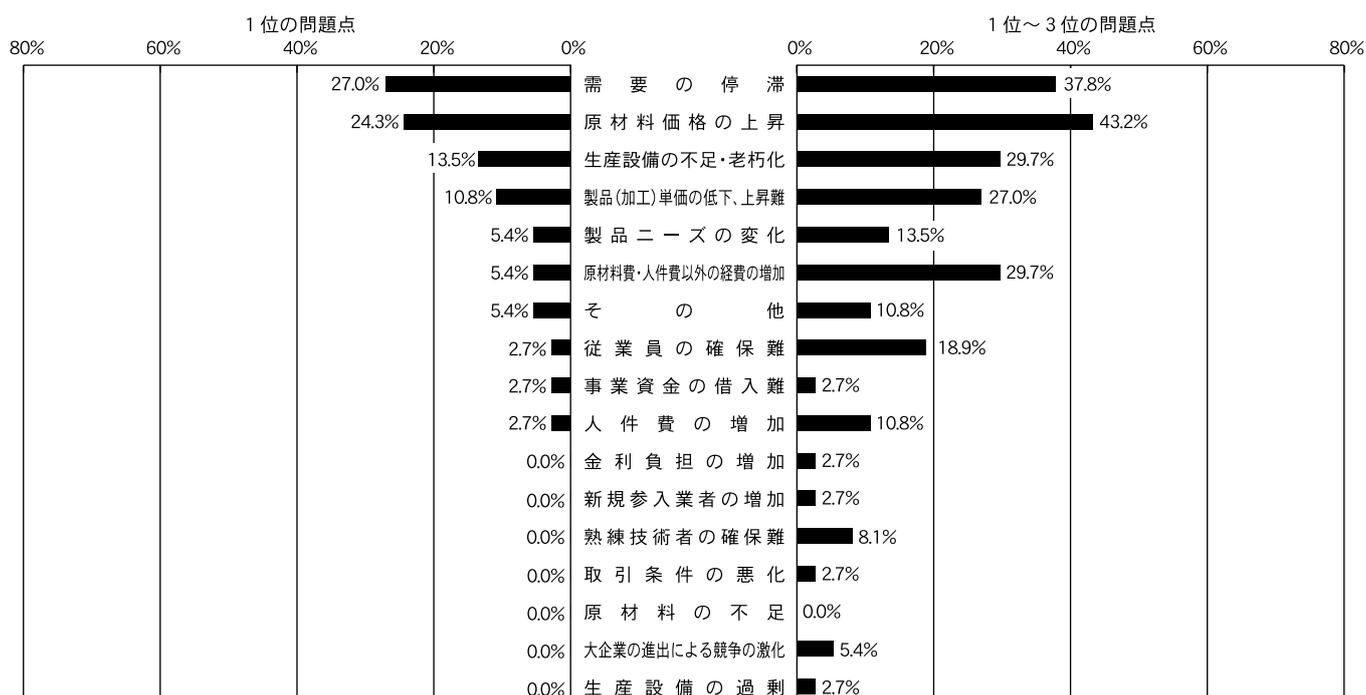
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の27.0%（10社）であり、2番目は「原材料価格の上昇」の24.3%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらは1番目に多かったのが「原材料価格の上昇」の43.2%（16社）であり、2番目に多かったのが「需要の停滞」の37.8%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	13.5
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
印刷・同関連業	2	5.4
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	3	8.1
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.1
電気機械器具製造業	3	8.1
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	5	13.6
合計	37	100.0

従業員規模別

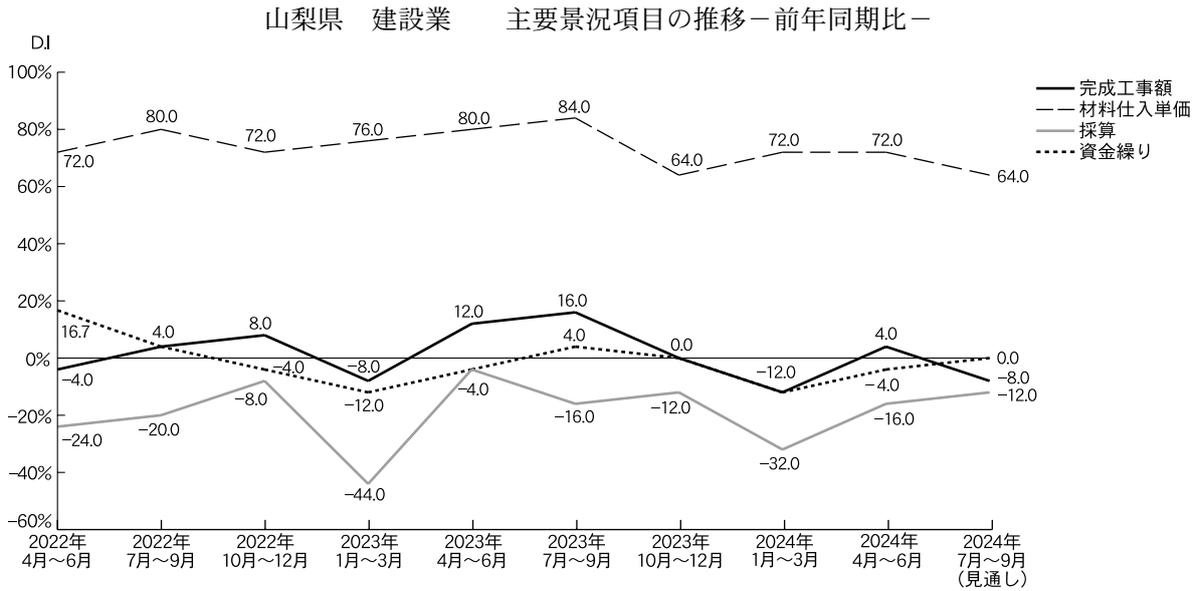
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	19	51.4	16	43.3
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期4.0と前期比で16.0ポイント改善したが、来期は▲8.0へ悪化の見通し。材料仕入単価D Iは、今期72.0で前期と変化なし、来期は64.0へ下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲16.0と前期比で16.0ポイント改善し、来期も▲12.0へ改善の見通しである。資金繰りD Iも、今期▲4.0と前期比で8.0ポイント改善し、来期は0.0へ改善の見通しである。

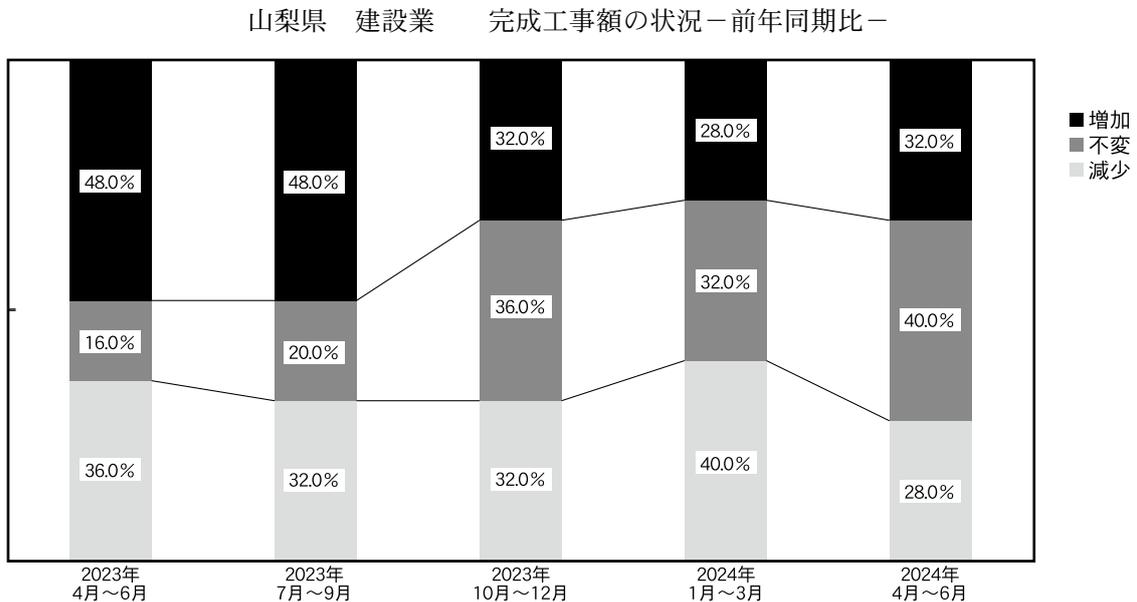
今期は変化なしの材料仕入単価D I以外は改善となり、来期は完成工事額D Iが悪化の見通しであるが、他のD Iは全て改善の見通しである。



(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、32.0%（8社）と増加（前期比+1社）している。
 「不変」は40.0%（10社）と増加（前期比+2社）、
 「減少」は28.0%（7社）と減少（前期比▲3社）している。

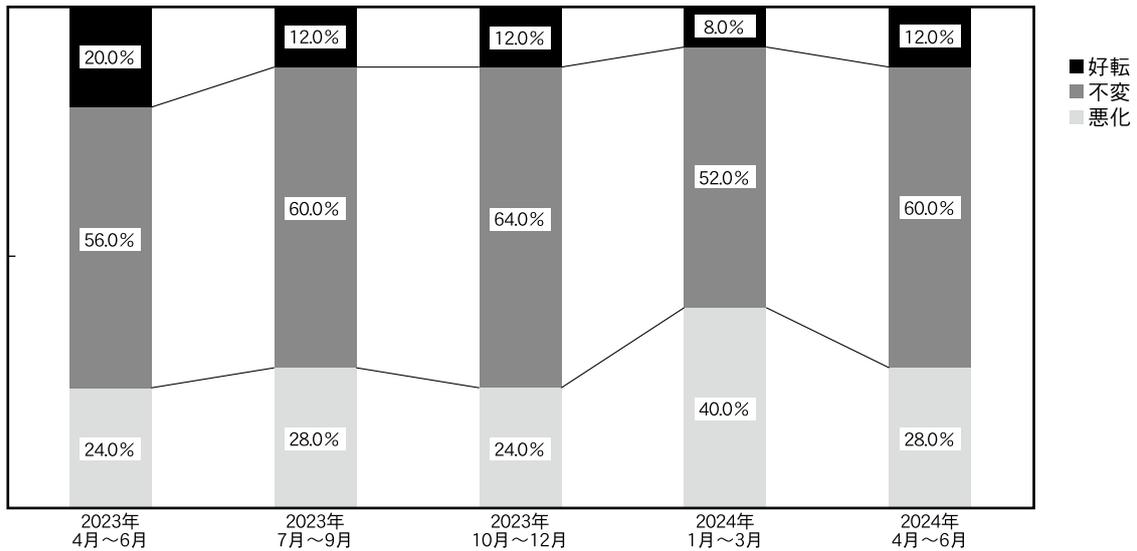


② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（3社）と増加（前期比+1社）している。
 「不変」は60.0%（15社）と増加（前期比+2社）、
 「悪化」は28.0%（7社）と減少（前期比▲3社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

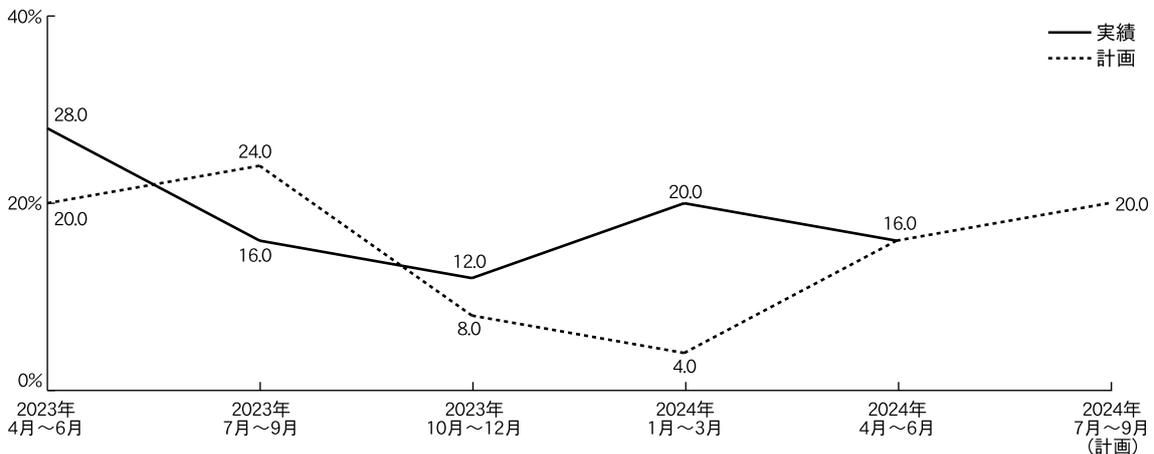


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「OA機器」が2件、「土地」「建設機械」「車両・運搬具」が1件ずつであった。

来期の計画については、20.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「OA機器」が2件、「土地」「建設機械」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

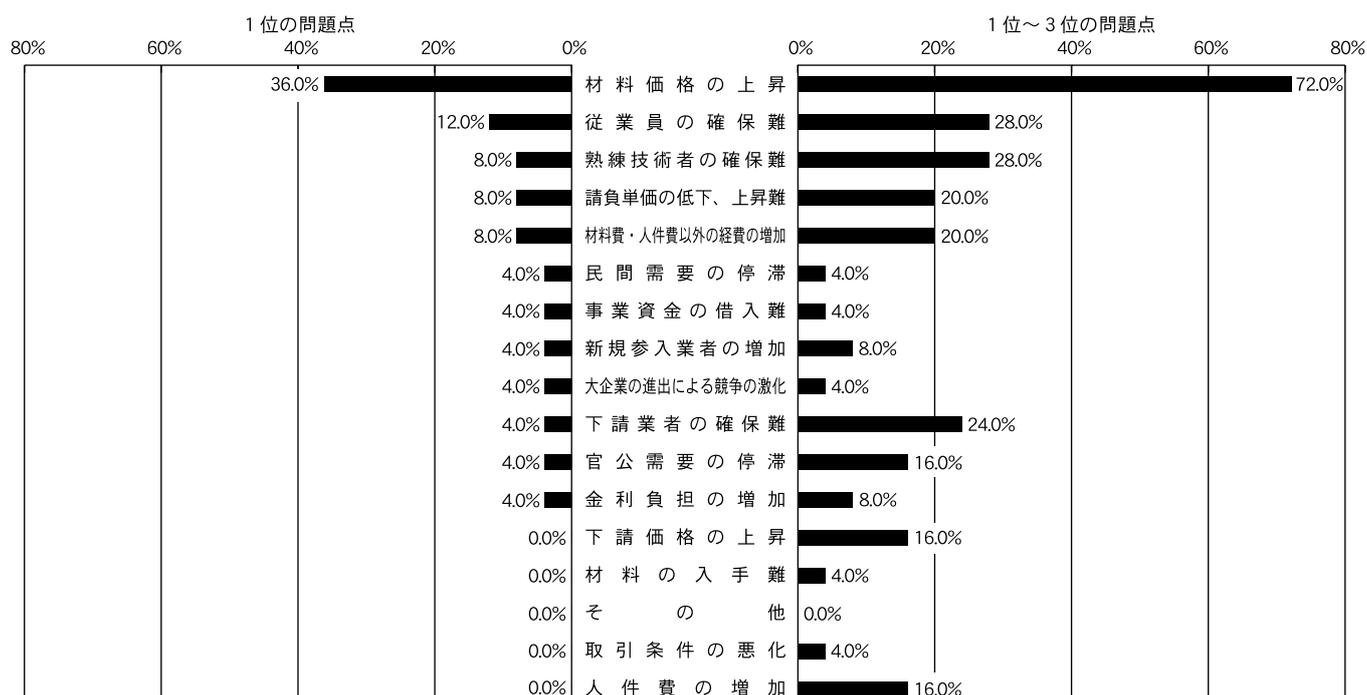
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

過去調査に引き続き「材料価格の上昇」が最も多く挙げられており36.0%（9社）であった。2番目に多かったのは「従業員の確保難」の12.0%（3社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料価格の上昇」の72.0%（18社）であった。2番目に多かったのは同率で「従業員の確保難」と「熟練技術者の確保難」の28.0%（7社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	6	24.0	7	28.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

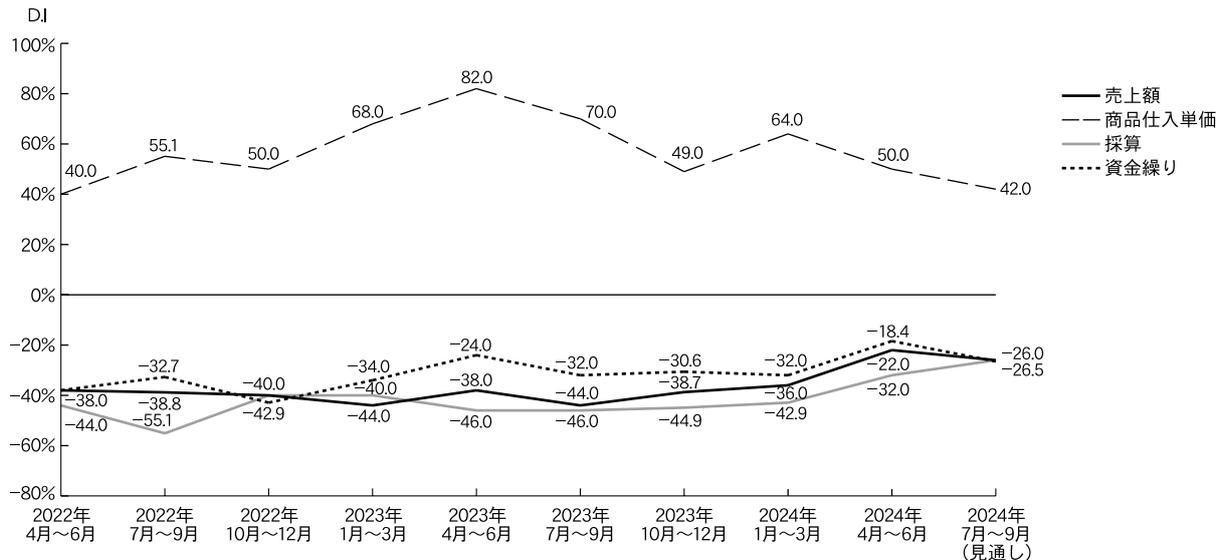
4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲22.0と前期比で14.0ポイント改善したが、来期は▲26.0へ悪化の見通し。商品仕入単価D Iは、今期50.0と前期比で14.0ポイント下降（改善）し、来期も42.0へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲32.0と前期比で10.9ポイント改善し、来期も▲26.0へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲18.4と前期比で13.6ポイント改善したが、来期は▲26.5へ悪化の見通しである。

今期は全D Iが改善したが、来期は商品仕入単価D Iと採算D Iが改善の見通しだが、売上額D Iと資金繰りD Iは悪化の見通しである。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

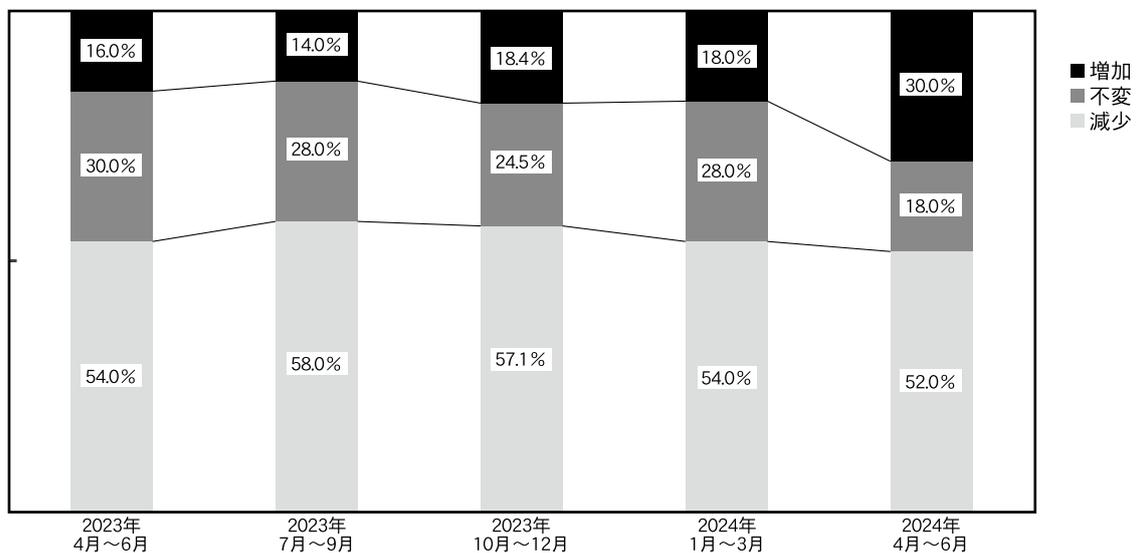
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、30.0%（15社）と増加（前期比+6社）している。

「不変」は18.0%（9社）と減少（前期比▲5社）、

「減少」は52.0%（26社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社（前回49社））

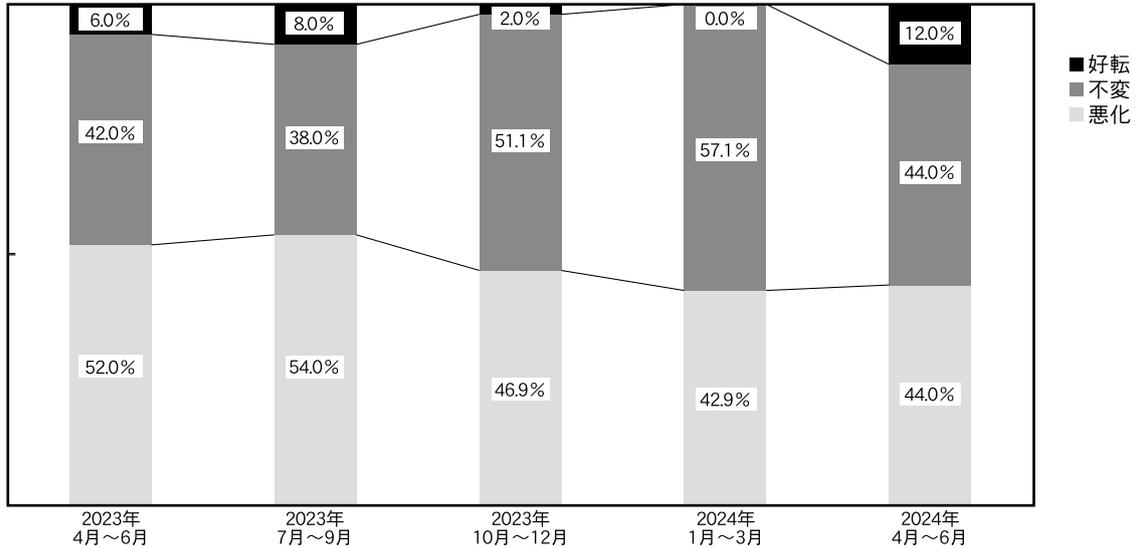
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（6社）と増加（前期比+6社）している。

「不変」は44.0%（22社）と減少（前期比▲6社）、

「悪化」は44.0%（22社）と増加（前期比+1社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

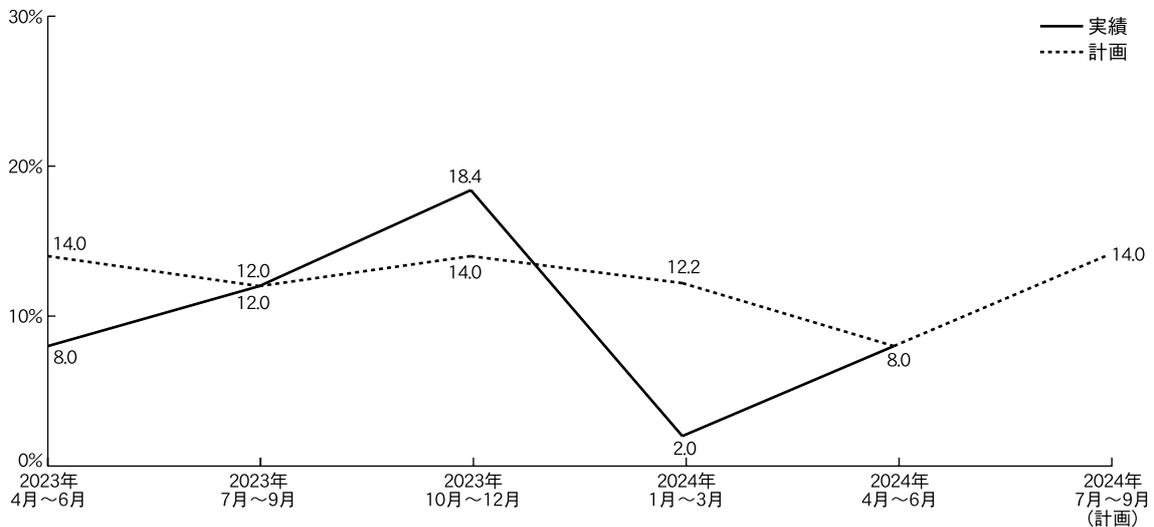


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」「販売設備」「OA機器」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、14.0%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「その他」が4件、「車両・運搬具」が2件、「店舗」「販売設備」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

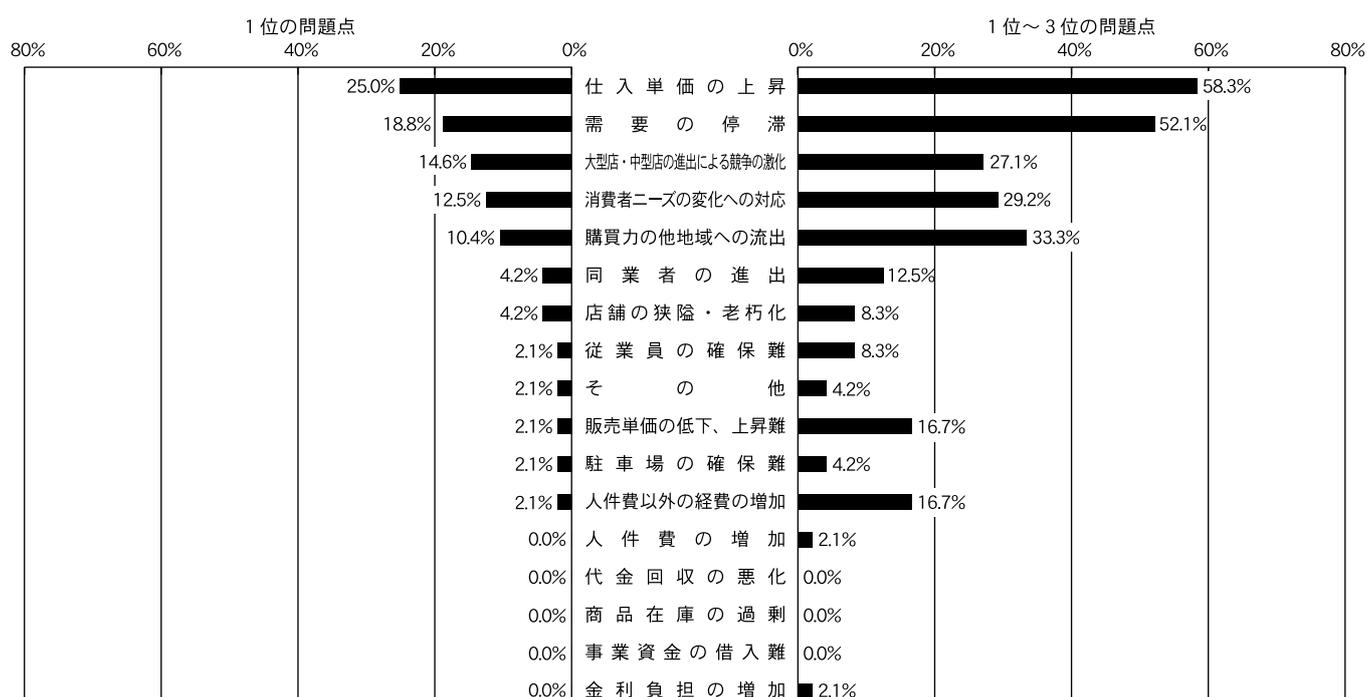
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の25.0%（12社）であり、2番目は「需要の停滞」の18.8%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の58.3%（28社）であり、2番目も「需要の停滞」の52.1%（25社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	1	2.0
合計	50	100.0	50	100.0

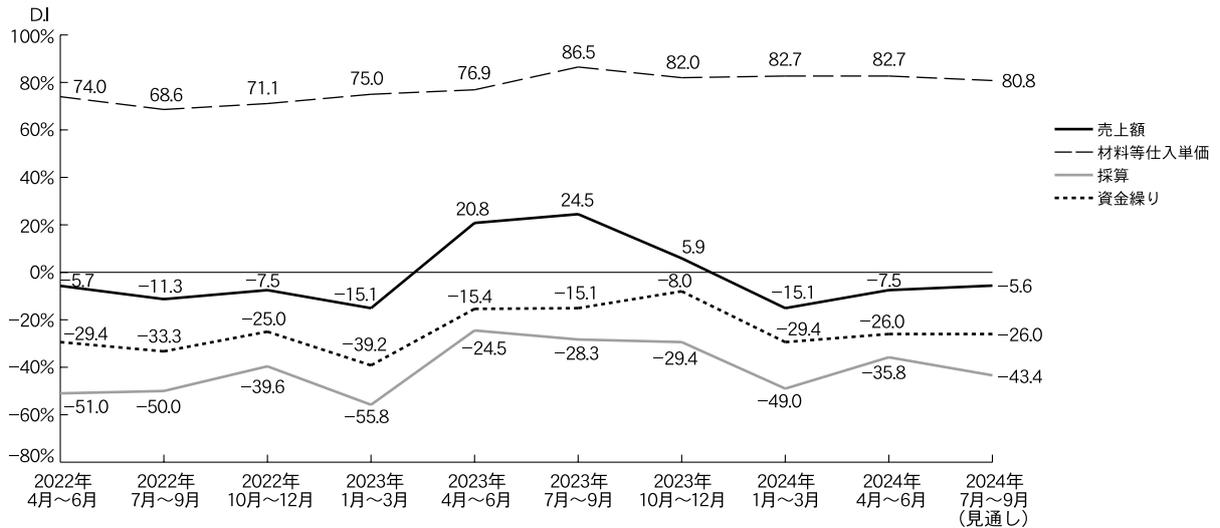
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲7.5と前期比で7.6ポイント改善し、来期も▲5.6へ改善の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期82.7と前期と変化無したが、来期は80.8へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲35.8と前期比で13.2ポイント改善したが、来期は▲43.4へ悪化の見通し。資金繰りD Iは、今期▲26.0と前期比で3.4ポイント改善し、来期も▲26.0の見通しである。

今期は変化なしの材料等仕入単価D I以外の全てのD Iが改善した。来期は売上額D Iと材料等仕入単価D Iとが改善、採算D Iが悪化、資金繰りD Iは変化なしの見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

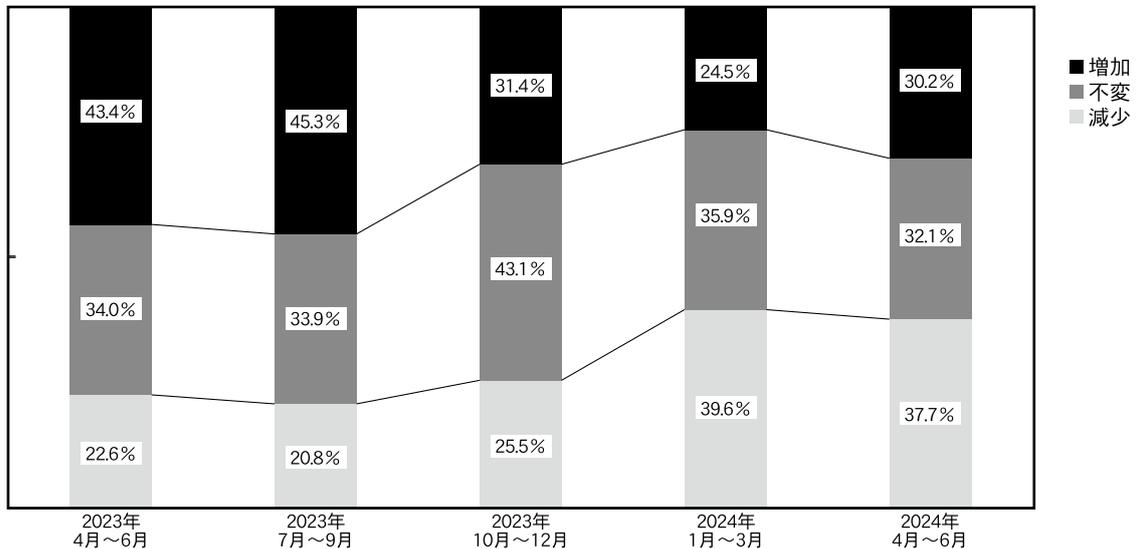
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、30.2%（16社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は32.1%（17社）と減少（前期比▲2社）、

「減少」は37.7%（20社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－

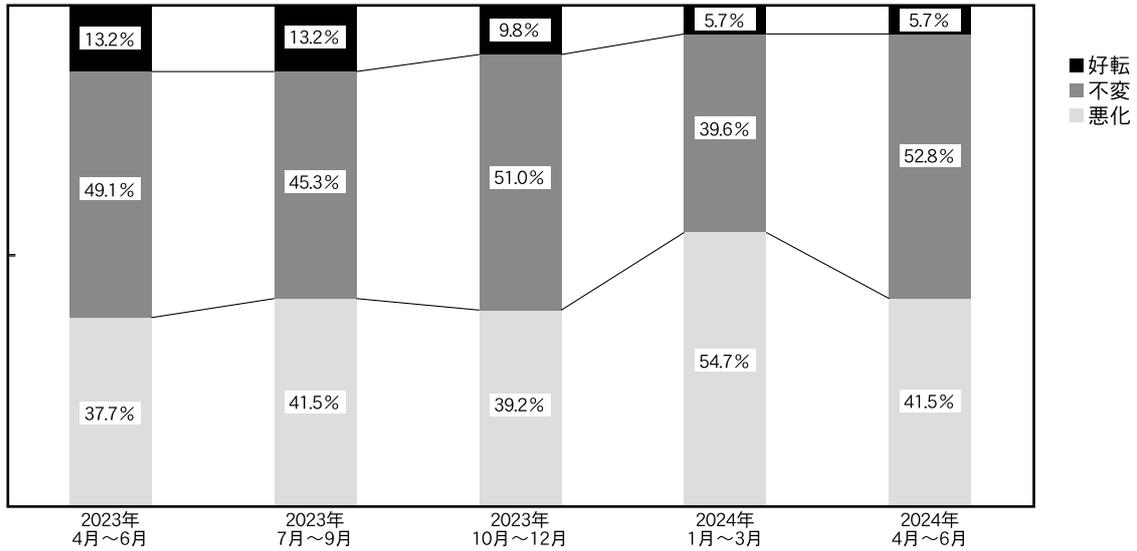


② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）で前期と変化なし
 「不変」は52.8%（28社）と増加（前期比+7社）、
 「悪化」は41.5%（22社）と減少（前期比▲7社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

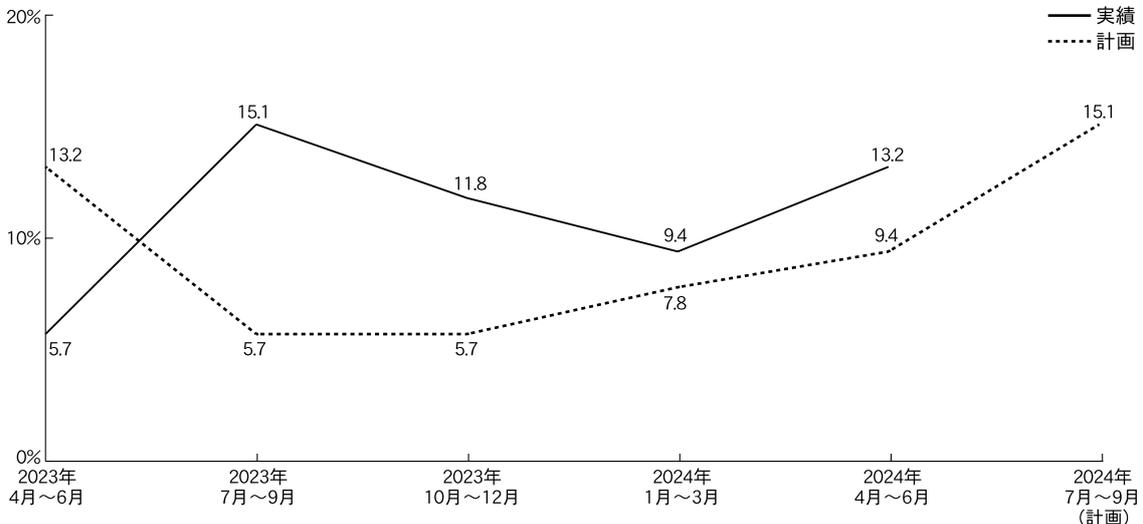


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は13.2%（7社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」が2件ずつ、「OA機器」「福利厚生施設」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、15.1%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯施設」が3件、「建物」「サービス」「車両・運搬具」「OA機器」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

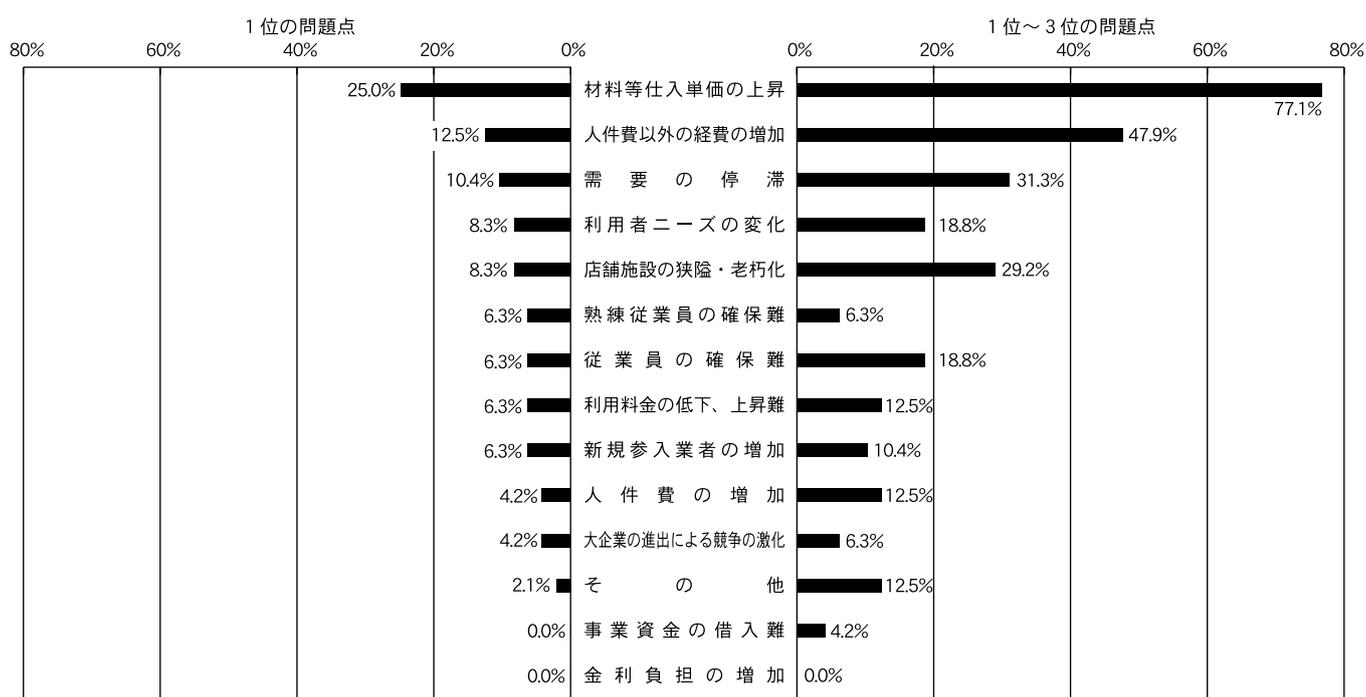
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の25.0%（12社）であり、2番目は「人件費以外の経費の増加」の12.5%（6社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは「材料等仕入単価の上昇」で77.1%（37社）、2番目も「人件費以外の経費の増加」で47.9%（23社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.8
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い			
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	45	84.9	38	71.7
3人～5人以下	8	15.1	11	20.7
6人～10人以下	0	0.0	3	5.7
11人～20人以下	0	0.0	1	1.9
合計	53	100.0	53	100.0